

二宮町立二宮中学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方（4年次）

1 実践の目的

二宮町では、令和5年4月より町内すべての学校が1つの施設分離型小中一貫教育校『にのみや学園』となった。学園の開校に向けて、にのみや学園の教職員全員の願いや想いを紡ぎ、教育目標を次の通り定めた。

『認め合い 高め合う 二宮の子』

この教育目標を実現するために、子ども同士の学び合いや話し合いを中心とした授業づくりに学園全体で共通性と一貫性をもって取り組んでいる。学級づくりの基盤や学習の進め方を揃えることで、子どもたちが安心して学んだり、進級したりできるようにするとともに、9年間を見通して子どもたちに必要な資質・能力の育成を図ることができると考える。

子どもたちに育みたい資質・能力を学園内で共通理解を図り、授業づくりを進めることを大事にしている。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

授業づくりでは、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を意識し、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性を一体的に育てて

いくための授業改善を図ることを意識している。

特に、4年次となる令和6年度においては、学びに向かう力を高めていくために、以下の内容も研究の視点に加えて取り組んだ。

- ・習得の授業における子どもの主体性
- ・日常生活や学校生活との関連付け
- ・学習活動や単元全体の目的意識の共有

2 実践の内容

（1）研究体制

今年度も引き続き、教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を講師に迎え、指導・助言を仰いでいる。

（2）研究授業、研究協議の様子

本校では、6月19日（水）に2年生で道徳の研究授業、11月20日（水）にかながわ学びづくり公開授業研究会を行った。

道徳の研究授業では、題材は共通のものとし、3クラスで異なるアプローチでの検証を行った。生徒もこれまでの積み重ねもあり、他の生徒の意見と比較しながら発言したり、繋がりを考えたりしながら積極的に授業に取り組む姿が見られた。

公開授業研究会では、吉新氏によって提唱されている6つの手立てを用いた授業実践を取り入れた授業を計11クラス（支援級含）で行った。それぞれの教科の特性を生かしながら、深い学びになる授業を提案することができた。



(写真①家庭科、写真②保健体育)

また、研究会では日頃から6つの手立てを活用して会を進行している。これを公開授業研究会の研究協議でも行い、多くの参加者との意見交換ができた。それにより生徒と同じ立場で教員間の深い学び合いにつなげることができた。



3 実践の成果

研究開始から4年ということもあり、教員側は「話し合いの授業」に積極的に取り組むことができるようになってきたと考える。また、問題解決学習を行う上で、子どもたちにとって、どの課題が取り組みやすく、積極的に取り組むことができるのか、教員の中で研究を深めた。一方、生徒も話し合うことへの抵抗が少なくなり、生徒自ら話し合いを進めようとする姿勢が見られるようにな

った。授業全体を通して見ても、主体的に取り組むことができるようになってきている。また、授業だけでなく、学級での話し合いや行事などの決め事を生徒主体で取り組む場面も増えてきており、生徒の成長を強く実感している。

4 今後の展開

今後の授業研究を行なっていくにあたって、重要視すべきことは大きく4つあると考える。1つ目は「カリキュラム・単元計画」である。どこで話し合いを行い、どこで知識習得をするのかといったカリキュラムや単元の計画を今一度見直して、授業準備を行う必要がある。2つ目は「生徒の実態把握」である。生徒一人ひとりの理解の度合いや速度は異なるため、どのような発問や教材を使うか検討し、個別最適な学習ができるようにしたい。また、話し合い活動が苦手な生徒も含め、どのようにして意見を引き出すか、手立てや課題設定を検討することが求められる。3つ目は「小学校とのつながり」である。生徒に確かな学力を身につけさせるために小学校と一貫した取り組みを継続して行うことが大切である。日頃から行う教材研究も小中一貫教育の取り組みを意識して行うことが重要である。

4つ目は「安心できる学級づくり」である。活発な話し合い活動を行うためには、その学習集団がどのような意見でも受け入れることができる集団にすることが求められる。そのため、日頃の学級運営は重要な基盤となっており、お互いの意見の尊重や認め合うことの大切さを生徒が実感できるように教員が働きかけていく必要がある。

これら4点を意識しながら今後の授業研究を行っていきたい。